

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	:0193600343		
法人名	日総ふれあいケアサービス(株)		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム 山法師 1F		
所在地	苫小牧市日吉町1-2-23		
自己評価作成日	平成29年2月28日	評価結果市町村受理日	平成29年3月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kan=true&JigyosyoCd=0193600343-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・町内会での行事活動、近隣の小学校や保育所との定期的な交流活動があり、入居者様は地域住民の皆様と共生して生活ができるよう積極的に取り組んでいます。 ・入居者様のご自宅で行っていたことをホーム生活でも行なえるよう心がけ、一緒に家庭的な雰囲気の中で家事仕事、料理の盛り付け・配膳、拭き掃除や床のモップかけ洗濯など安全に配慮し行っています。 ・パーソンセンタードケア(入居者様主体)を理解し、利用者様が生活の中で不安な気持ちにならないように少しでも軽減するように受容と傾聴の姿勢で寄り添う介護でその人らしく生活して頂くため、職員は地域住民の皆様のご協力を頂き入居者様やご家族様との関わりを尊重し地域活動参加を推奨しております。 ・1階2階合同行事を年2回実施「春・秋」入居者様・ご家族様・職員が一体となり日帰りバス旅行を支援に取り入れ楽しみの場を提供できる様に努めている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「ふれあいの里 グループホーム 山法師」は、近くに公園や回転寿司、ドラッグストアなどもあるバス停から数分の静かな住宅地に立地している。建物内は明るく開放感がある造りで、清掃が行き届いた家庭的な温かみのある空間になっている。ホーム長は、外部研修などを活用しながら職員の資質向上に向けて取り組むと共に、職員の提案などを積極的にケアや運営に反映させるなど働きやすい職場環境整備に努めており、職員の定着率も高い事業所である。運営推進会議は、毎回数名の家族の参加を得て、認知症介護など参加者に役立つ情報を提供している。ホーム長が市役所を訪問して情報交換する機会も多く、日頃から連絡を密に取り協力関係を築いている。近隣の保育園や小学校との交流の他、今年度は新たに地域包括支援センター主催の「介護予防運動会」に参加するなど、更に地域交流を深めている。花見やピクニック、新千歳空港などに全員で出かけたり、個々の希望に応じて随時外出するなど年間を通して積極的に外出支援に力を入れている。馴染みの方との交流も継続できるように、個々に応じた細やかな対応を行っている。全職員で各利用者の残存能力を把握しながら一人ひとりが役割を持って日々の活動に参加できるように工夫し、自信を持って楽しい毎日が送れるように温かな支援を行っている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に、理念の説明を行い、又ホーム内に掲示し全員で共有実践に努めている。また各職員が携帯しているネームプレートの裏に理念が記載されている。	法人共通理念を事業所の理念として据えて、申し送りやカンファレンスで再確認している。前回の課題への取り組みとして新たにネームプレートの裏に記載した理念を仕事前に確認することで、各職員は更に理解を深めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の活動(町内会清掃、夏祭り、新年会等)その他近隣の学校・保育所との定期的な交流を深めている。	地域包括支援センター主催の「介護予防運動会」に参加して、老人クラブの方々や他のグループホームの利用者と交流している。小学校の学習発表会の出し物を見学したり、七夕の「ろうそく出せ」で来訪した子供たちにお菓子を渡している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、ボランティア・町内会・老人クラブの方々にホームでの行事、支援内容を報告し、理解に努めている。毎月作成のホーム新聞等も活用している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所での活動状況、利用者様の日常生活状況を報告を行っている。会議参加者様からのご要望・ご意見等は即座に検討しサービス向上に繋げている。	毎回4～5名程の家族の参加を得て、事業所報告や認知症介護などをテーマに開催している。今後は、テーマに沿って参加できない家族の意見も事前に聴き取りながら議事録に質疑応答なども記載し、更に充実した会議を行いたいと考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、活動状況での取り組みを伝え、協力関係を築くように取り組んでいる。またその都度疑問等があれば担当者に確認もしている。	ホーム長は、書類の提出の他、待機情報などを報告して現状を把握してもらうように努めている。また、日頃から市役所を訪問して情報交換しながら、災害対策や感染症などのアドバイスを受けて運営やケアに活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外は施錠していない。ホーム内に不適切ケア防止担当者(虐待担当)が専任されていて、毎月会議で検討会が開催され職員にも勉強会等でケアに活かせる対応で取り組んでいる(資料配布)もある。	「禁止の対象となる具体的な行為」を記載した法人マニュアルを整備している。ホーム長は、一人ひとりの利用者を見守りながら、迅速に適切な対応を行うように指導している。車椅子の方も長時間座ったままにならないように全職員で配慮しながら、拘束につながらないようなケアを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、担当者会議を行いマニュアル等に基づき拘束をしないケアに取り組んでいる。専任の不適切ケア防止担当者(虐待担当)と役職者が毎月会議を開催し職員の対応を精査し防止に努めている。		

ふれあいの里 グループホーム山法師

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内部・外部研修に参加し学ぶ機会があり、現に成年後見制度を利用されている入居者様がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者がご家族様に説明している。ご家族様との会話からの情報については、職員に説明があり情報共有している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の面会時に職員や役職者が日常の状況を、報告している。他に自由に意見を出して頂けるようホーム内に意見箱の設置もされている。あと運営推進会議時でも意見を述べて頂き、運営に反映させていくよう対応を図っている。	家族の来訪時に本人の近況を報告しながら要望などを聞き取り、申し送りノートや口頭で伝えて職員間で情報を共有している。家族の思いを更に把握できるように、些細な意見や職員の気づきを記録する個別の「気づきノート」の作成を考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議：個別面談等でその都度、他に何かあれば相談している。	ホーム長は、職員の提案などを反映させて迅速に実施して経過を検討しながら、よりよい運営やケアを目指して取り組んでいる。また、新入社員の意見は、新しい視点での貴重な意見として捉えて積極的に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内で、各職員は資格取得等スキルアップに努めている。状況に応じ「勤務体制での変更」等で考慮し柔軟に対応に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修では「入社歴：経験」等を考慮しての研修が受けることができるように配慮している。その他職員の希望で「内部：外部」研修が受けれる機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域研修会「他施設との合同勉強会」に参加し意見交換：情報交換での交流を深めサービスの質を向上させる取り組みに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前での面談やご家族様からの過去の生活歴を情報として活用し、ニーズを探り職員全員で情報共有を行い、支援に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様や家族の困っている事や不安に感じていることに耳を傾け、ご家族との関係づくりに努めている。要望等も可能な限り実現できるように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前後での生活状況を入居前に入手した情報からアセスメントし、入居者様の必要なニーズを再検討し支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	継続で職員と一緒に台所での炊事活動、盛り付け、味付け、食器洗い、日常生活での馴れ親しんできたことを、見極めながら得意なことを活用しながら同じ立場で寄り添い関係を大切にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	継続で職員と家族が寄り添い支援に努めている。又、病院対応については、ご家族の協力を頂きながら、共に関係を築いている。「利用者様の思いもご家族様に伝わるように調整を図っている」		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	随時事業所に訪ねて来られた時には、訪ねて来られやすい環境に配慮し、関係が途切れない様努め、又手紙やはがき、電話等で交流を持っている。	老人クラブの仲間や同級生、近所に住んでいた方などが来訪して、利用者と一緒におやつを食べることもある。職員と一緒に馴染みの美容室や喫茶店に出かけたり、家族同伴で友人と外出している利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様個々の特性や習慣を把握し座席の配置を工夫し配慮している。職員も必ず間に入り関係調整等で支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、来訪して頂いたり、訪ねたりし、病院等にお見舞いに行くなど良好な関係を築けている。お手紙やお電話等での活用もしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活歴を把握し、センター方式を活用「定期的に更新」、心の声を感じとり、カンファレンス会議等で、本人様の本意に沿うように検討を重ねている。	日頃の会話や入居後の生活歴、家族への聴き取りなどから思いや意向を把握している。センター方式「私の暮らし方」シートなどを定期的に更新して、各利用者の現状を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し基本情報を家族様に記入していただき、情報収集し把握に努めている。その他訪問時「知人：友人：親類」等からも情報収集し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体的：精神的な状況や残存能力を日々の生活の中で把握に努め介護記録に落としている。その情報をミーティングで役職者：職員間で引き継ぎを行い把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で状況把握に努め、ご本人様やご家族様に意向を汲み取り、入居者様に即した計画に修正し作成に努めている。	計画作成担当者を中心に、全職員で3か月ごとに介護計画の見直しを行い、センター方式の「焦点情報」や「暮らしの情報」シートを6か月毎に更新している。本人に分かりやすく介護計画を説明して、署名捺印をもらうこともある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	随時提案等があれば、その都度役職者に報告し検討する。職員間で情報を共有、実践し介護記録に記入、実践前は連絡ノートに記入され毎朝出勤時に確認、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様：ご家族様の時々々の状況に応じて、往診・受診・緊急時など必要と思われるサービス支援は柔軟に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学校・保育園・町内会の行事等で交流し関わりを持ち支援している。傾聴ボランティアの来訪もあり楽しまれている。今後も外部からのボランティアを活用し支援に努めたいと検討している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関については、本人・家族の意向に沿って決定して頂き、事業所は、スムーズに医療を受けられるように、支援している。「訪問診療：訪問歯科：訪問看護」等も含み。	緊急時以外は家族対応を基本として、受診時に健康チェック表や生活チェック表、健康状況などを書面で主治医に伝えている。受診や往診記録は健康チェック表の裏に記載して個別に整理している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの医療提携病院の訪問看護師が月2回訪問され、医療職からの目線で受診の必要性や緊急対応が速やかに行えるように情報共有「医療情報記録」を職員は記入し伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護添書等を作成、病院関係者と情報交換や相談に努め、退院時もカンファレンスは役職者が出席し支援計画の作成に役立っている。退院後も連絡できる関係を築いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から重度化、終末期に向けた方針をご家族様と話し合い、状況の変化時にも話し合いを行っている。病院関係者とも、支援の相談を行い、運営推進会議時にご家族様からの要望等もあり、早期の段階から検討、取り組みをしている。	利用開始時に、「重度化した場合の対応に係る指針」に沿って、事業所として可能な対応について説明している。医療行為が必要になった場合は対応が難しいことを伝えて、退去後の適切な施設の相談や紹介も行うことを話して安心につなげている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は苫小牧市：日赤等主催の救命救急・AED使用方法の講習会を受講し習得(身に付けて行ける様)している。本年も研修会参加に向けて調整中である。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合訓練の他火災・津波の災害時の避難訓練を行う。又運営推進会議等で、地域へのご協力をお願いしている。今回は3月27日訓練を実施を行う。	消防署の協力を得て昼夜の火災を想定した避難訓練を実施し、内1回は町内会役員も参加している。地震時のケア別での対応や室内の危険箇所について、職員間で再確認したいと考えている。	市役所や消防署などと相談しながら、津波発生時の安全確保の方法や避難誘導について、マニュアルなどの整備に向けて取り組むよう期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の気持ちを尊重「排泄時：入浴時」など、同性介助で羞恥心に対する配慮も考慮した対応や言葉かけで対応に努めている。	朝夕の申し送り時に言葉遣いや接遇について指導している。職員の声かけは優しく、落ち着いたトーンである。個人情報の管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思確認の声掛けを行い、言葉にできない方には、表情などから思いを汲み取り、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務優先ではなく、利用者様の生活スタイル・希望や要望等に合った生活ができるように心がけている。利用者様の生活リズム：ペースを崩さない様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室や化粧品店：衣料品店等での購入希望や出かける時にはご家族様の一部協力を得て支援に活用している。在宅で行っていたことを継続できるように取り組んでいる。		

ふれあいの里 グループホーム山法師

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と職員と一緒に食事作成「調理:盛り付け」等や食事の片付け「食器洗い:拭き」もされている。	食材の彩りに配慮し、適宜、法人の献立を変更している。外食や行事食、特別メニューを豊富に取り入れ、食を豊かにしている。調理や後片付けなどに、利用者も参加している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の本部に「担当管理栄養士が配置されている」栄養バランスを考慮したメニューを提供している。10時:15時に水分摂取の時間も設けていて、食事:水分量共に記録シートに記載している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・食後の口腔ケア(歯磨き・義歯洗浄)を行い、又洗口液を使用する等個々の状況に応じた支援をしている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、利用者様の羞恥心等も考慮し適時にトイレ誘導しトイレで排泄ができるように取り組んでいる。トイレの場所を把握できない利用者様のためにトイレに「表示:文字と絵」で工夫している。	利用者全員の排泄をチェックしている。定期的に誘導したり、タイミングを見計らって声かけをして、失禁等を予防している。夜間帯も本人の状態に応じて、個別に対応し、トイレでの排泄を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段から野菜:食物繊維:牛乳:ヨーグルトなどの食品を多く取り入れている。その都度「飲水量・便秘日数」を記録し職員間で情報共有している。毎日の日課で体操:散歩もに支援に取り組んでいる。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	各入居者様が最低週2回は、確実に入浴楽しめる様対応、又入浴時の意思確認を行っている。時間帯も午前と午後と意思確認し柔軟に対応をしている。希望があれば毎日でも入浴できる体制を整えている。	週に2~3回入る利用者がいたり、朝の時間帯や夕方近くの入浴など、本人の習慣や入りたい時間の要望に応じている。一人ひとりに合わせて湯温を調節したり、会話をしながら楽しい入浴になるよう対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣を尊重し時々の状況を考慮し良眠される様支援している。特に日中でのレク活動を活用し運動量を多く取り入れ夜間良眠できるように努めている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報をフェイスシートに管理され、把握するよう努め、服薬時は、飲み込み確認の支援を行っている。利用者様毎の薬ケースがあり職員は随時確認もできる。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式活用から生活歴で本人の好きな事等を把握し、本人が楽しんで頂ける様支援している。春からはホームの畑作業:ドライブ:外食:買い物等など気分転換できる支援を多く取り入れている。			

ふれあいの里 グループホーム山法師

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	公園や郵便局・コンビニ等に行かれたり、外気浴等を行ったりしている。又外出行事も春から毎月計画し随時支援している。「毎月一回実施されていて」個別の希望もその日の状況に合わせて支援できるように取り組んでいる。	事業所周辺や公園、郵便局、海など本人が好きなコースを散歩している。個別の買い物の他、バスを利用しての花見や手作り弁当持参でのピクニック、市役所展望台や空港で飛行機を眺めながらの夕食など、多彩な外出支援に取り組んでいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで預かり金を行っていない。一部の利用者様がお小遣い程度の現金を所持され自由に希望で買い物等で使用されている。職員が随時同行し確認「領収証も回収」しご家族様に報告している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	随時希望により、電話の取次ぎを行っている。又手紙のやり取りの支援を行っている。職員が一部協力し繋がりを重視した支援をしている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感を取り入れた館内のディスプレイも定期的に変え、心地よく過ごせる様工夫している。室内の湿度にも職員は配慮している。定期的な換気活動やリビングにも加湿器を設置し快適に過ごせる工夫をしている。	事業所全体が明るく、清潔感があり、季節を感じさせる置物や壁面の上品な飾り付けなど、職員のアイディアを活かした温かみのある空間である。床暖房で足元が暖かく、加湿器で湿度調整を行っている。浴室脱衣所内のトイレを含め、トイレは4箇所あり、可動式バーや背もたれを設置している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室・リビング・和室など定期的に検討し居場所の工夫をしている。ソファの増設やテーブルの配置もしてスペースを確保しくつろぎの場を用意している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	スタッフの手作り表札を居室の入り口へ掲げ各居室に湿度計を設置心地よく過ごせる様工夫している。在宅時に使用していた愛着のある家具：仏壇等も居室に設置を推奨し、原に設置されている入居者様もいらしゃる。	居室には、好みの家具や調度品が持ち込まれ、本人や家族と相談しながら環境を整えている。趣味を楽しむためのコーナーを設けていたり、ベッドに足を伸ばしながらのテレビ視聴など、一人ひとりの居心地に配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリー対応している。居室のネームプレート・トイレ・浴室等の案内表示して工夫している。「車椅子：歩行器」も用意している。			

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	:0193600343		
法人名	日総ふれあいケアサービス(株)		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム 山法師 2F		
所在地	苫小牧市日吉町1-2-23		
自己評価作成日	平成29年2月28日	評価結果市町村受理日	平成29年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・町内会での行事活動、近隣の小学校や保育所との定期的な交流活動があり、入居者様は地域住民の皆様と共生して生活ができるよう積極的に取り組んでいます。 ・入居者様のご自宅で行っていたことをホーム生活でも行なえるよう心がけ、一緒に家庭的な雰囲気の中で家事仕事、料理の盛り付け・配膳、拭き掃除や床のモップかけ洗濯など安全に配慮し行っています。 ・パーソンセンタードケア(入居者様主体)を理解し、利用者様が生活の中で不安な気持ちにならないように少しでも軽減するように受容と傾聴の姿勢で寄り添う介護でその人らしく生活して頂くため、職員は地域住民の皆様のご協力を頂き入居者様やご家族様との関わりを尊重し地域活動参加を推奨しております。 ・1階2階合同行事を年2回実施「春・秋」入居者様・ご家族様・職員が一体となり日帰りバス旅行を支援に取り入れ楽しみの場を提供できる様に努めている。
--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kan=true&JigyosyoCd=0193600343-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年3月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に管理者より、理念の説明を受けている。又ホーム内に掲示し全員で共有実践にも努めている。また職員のネームプレートの裏にも理念が記載され実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会活動・古紙回収・ごみ拾い他行事に参加し、積極的に交流に努めている。その他ではお祭り:学校:保育園との定期的な交流もしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時、ボランティア・町内会・老人クラブの方々参加して頂き、ホームでの行事、支援内容を報告し、認知症に対する理解を深める対応に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の活動状況を各ユニット担当者より詳細に報告している。会議時には各関係者様の意見:要望もその都度取り入れられサービスの向上に繋げている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂きサービスの取り組みを伝えている。その都度疑問等が発生した時にも随時訪問や電話での問い合わせもしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外は施錠をしていない。また、身体拘束をしている事実もない。利用者様が穏やかで自由に暮らせるように注意を払い支援に努めている。ホーム内に不適切ケア(虐待)防止担当者が配置されており、勉強会も予定されている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切ケア(虐待)担当者を中心に勉強会で学ぶ機会を多く持ち支援に活かしている。その他毎月のユニット会議時にも話し合いの機会を設けて防止に努めている。		

ふれあいの里 グループホーム山法師

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修会等により具体的な資料等での提示があり、学ぶ機会があり支援に活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には、管理者がご本人様・ご家族様に理解しやすい言葉「福祉専門用語」を使用しないで、丁寧に説明をして納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の来訪時には随時日頃の生活状況を報告している。要望等があった時には管理者に報告。要望をユニット会議で検討し改善に努める。その他ホーム内にご意見箱を設置。運営推進会議の場でも自由に意見を表せる機会を設けている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス会議等で、事業所の運営報告を行い、職員からも提案事項を聞く機会を設けている。職員との個別面談も実施し、意見内容を精査し、支援に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な面談で要望や希望、悩み等を聞く機会を設けている。職員の希望があれば随時社内・社外研修に参加して頂き、各職員の意識向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社歴：経験等を考慮し研修を受ける機会を設けている。随時職員には研修案内も提示し参加しやすい体制にもしている。職員の自発的な勉強会「外部」等にも必ず勤務調整をし参加できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	苫小牧地区GH協会等の事業所との交流を深めサービスの質を向上させる取り組みに努めている。その他病院：福祉施設等とも交流をしサービスの質を向上させる取り組みをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本は受容と傾聴の姿勢でご本人様・ご家族様と向き合い不安や要望に耳を傾けて少しでも安心が得られるための関係を築けるように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談で、直面している悩みや困りごとを少しでも軽減できるために時間をかけ耳を傾けながら検討し解決に向けた関係の構築に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員が寄り添うチームケアで支援に努めている。又、外部のサポートやサービスが必要な時はご家族の協力を頂きながら利用等で対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人にとってどうすることが、安心できるのか？職員が汲み取る姿勢を持ち共に暮らす関係を築いている。在宅時に馴れ親しんでいたこと得意なことを活かせる活動と同じ目線で寄り添い関係を築く対応に努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は常に利用者様・ご家族様に寄り添い支援に努めている。又、病院対応については、ご家族の協力を頂きながら、共に関係を築いている。「利用者様とご家族様間での思いも伝わるように関係調整も行っている」			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪ねて来られやすい環境に配慮し、関係が途切れない様努め、又手紙やはがき等で交流を持っている。来訪時には面会表の記入もさせていただいており、後日ご家族様にも報告している。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は常に、利用者様同士の関係を把握し、職員が間に入り良好な関係づくりに配慮している。又レク等に参加頂きお互いに楽しい時間を共有できる様に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、来訪して頂いたり、病院等にお見舞いに行くなど良好な関係を築いており、相談にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、生活歴から本人の好きな事等を把握し、本人が楽しんで頂ける様支援している。状況に応じ「知人:友人:親類」等からの情報収集も活用し検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	原則はセンター方式を活用し基本情報をご家族様から収集し把握に努めている。不足な情報はその他関係者様の来訪時に協力をして頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方・心身の状態、有する力等感じ取り、日々の引き継ぎ業務やカンファレンス等で、話し合い、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護記録を基に、今何が必要かその都度対応し、又ご家族様と共に、病院等に相談に行き、支援に努めている。ご本人様:ご家族様:ユニット職員で意見をすり合わせ現状に即したプラン作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は出勤時に閲覧、介護記録や連絡ノートにより、情報の共有実践に心がけている。介護計画の見直しや支援での統一対応の仕方に注意し実践に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様:ご家族様の希望により状況に応じて、柔軟に往診・受診・緊急時など必要と思われるサービス支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	継続で学校・保育園。町内会活動・ボランティア等の協力を頂き、関わりを持ち支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームとしては、医療機関については、本人・家族の意向に沿って決定して頂き、事業所は、スムーズに医療を受けられるように、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携先の訪問看護師が月2回訪問され、日常の情報や気づきを伝達し、病院と連携が図れる様に支援している。その後の状況報告もご家族にしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護添書等を作成し、病院関係者と情報交換や相談を行っている。退院前には役職者もカンファレンスに家族様と同席対応をしている。退院後も常に相談できる関係を築いている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から、ご家族様と話し合いを行い、今後の方向性の説明と提案をしている。又病院関係者や他の福祉施設等の関係者とも関係性を築いている。常にご家族様からの相談を支援に取り組んでいる。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は苫小牧市：日赤等主催の救命救急・AED使用方法の講習会に受講し習得に向け研修参加を調整中			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	総合訓練の他、火災・津波の災害時の避難訓練を実施している。運営推進会議等で、町内会の皆様へご協力をお願いしている。3月27日に訓練が予定されている。			

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、利用者様個人を尊重し、各自の状況に応じて、プライド等を傷つけない声掛けや見守りに対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自己決定をしやすいように選択肢を提供している。思いや希望が汲み取れるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務を優先にするのではなく、利用者様一人ひとりの生活リズムを大切に考えそれぞれの希望に合った生活ができる様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、清潔に気を遣い、又整容にも、配慮支援している。こだわりの化粧品や洋服でのおしゃれが日々できるように支援に努めている。		

ふれあいの里 グループホーム山法師

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に調理・配膳・後片付け等出来る範囲で、共に行っている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の本部に管理栄養士が配置されている。ホームでは個別に、食事量・水分量を確認している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日(義歯洗浄)、起床時・食後の口腔ケア(歯磨き)を行い、又洗口液を使用する等個々の状況に応じた支援をしている。利用者様の状況に応じた準備や一部介助対応をしている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は排泄リズムを把握して入居者様の自尊心に配慮した声かけで誘導し、トイレで排泄できるように取り組んでいる。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者様の排便状況を確認して食事内容を工夫している「野菜:食物繊維:牛乳:ヨーグルト」等を提供し、日中での活動量を多く取り入れ便秘予防に努めている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員は利用者様の要望があれば、AM:PMで希望により入浴ができる体制を整えている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の習慣を尊重し時々の状況を考慮し良眠される様支援している。「特に日中での趣味活動」を促し夜間良眠できるように努めている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報を全職員が把握に努めている。服薬時は、飲み込み確認の支援を行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式活用から過去の生活歴から本人の好きなことや特技を把握し、本人が楽しんで頂けるように支援している			

ふれあいの里 グループホーム山法師

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの公園に散歩に行かれたり、外気浴等を行ったりしている。一部ご家族様のご協力も頂き外出や外泊もされ支援に大変役立っている。今後も推奨して行きたい。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでは預かり金を行っていない。現状はお小遣いを所持され利用者様自身が管理されている。、			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望により、何時でも電話の取次ぎを行っている。又手紙のやり取りの支援を行っている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間においては、入居者様が心地良く過ごせる様に配慮し、季節感を感じられる装飾を心掛けている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングではソファでくつろげるスペースを用意していたり、廊下側にも椅子とテーブルを増設し自由に過ごせる場所の提供に努めている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の馴染みな家具や用品を配置し居心地よく過ごせるように職員はご家族様と相談し対応に努めている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ:浴槽:廊下に手摺りが設置されている。エレベーターも設置され安全に移動ができる様に対応している。トイレ等の案内表示も「分かりやすい文字」で対応をしている。			

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里 グループホーム山法師

作成日：平成 29年 3月 28日

市町村受理日：平成 29年 3月 30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	年2回程度での火災訓練(昼:夜)対応で実施されているが、津波や地震での具体的な訓練はまだ実施に至っていない。苫小牧市指定での避難場所が糸井小学校でホームから850mの距離があり、1F・2Fでの入居者様(18名)を安全に誘導し避難する方法が現状での課題である。	地域住民の皆様方のご協力や、市役所介護福祉課様:地域包括センター様と今後更に連携を図りながらホーム職員での避難訓練を多く取り入れ安全に誘導できる体制と具体的なマニュアル作成をする。	日吉町内会並びにホーム近隣の皆様との交流促進「ホーム主催での「認知症での研修会開催」等に参加して頂き、積極的に認知症の理解を深めて頂く対応や運営推進会議時にご参加も頂く取組を多くして行く。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。
注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。